



真実を求め
真実を語り
真実を行う



令和5年度妻中学校だより

7月号



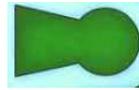
妻中HP

校長

伊東 泰彦

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

西都市の特色ある取組



① オール西都でのルールメイキング（校則の見直し）

西都市の中学校では、昨年度から、市内の6中学校が足並みをそろえて校則を見直す「オール西都校則検討委員会」に取り組んでいます。昨年度は髪型の規制緩和（ポニーテール、ツープロックや校外生活における校則の廃止等を改正し、本



7月21日に校則検討委員会と主権者教育特別授業が行われました。

年度も髪型や眉などの規制緩和について検討が進められています。検討会前にはリーダー研修として主権者教育の特別授業も行われます（写真）。今回は妻中の岩瀬先生（社会科）が「こども基本法と校則」について考えさせる授業を行って下さいました。

校則検討の指針としてR3に作られたチャレンジ宣言。6校それぞれが分担し「前文」や5つの指針を制作。開会行事でもその趣旨確認が行われた。

オール西都生徒会・校則検討プロジェクト
「チャレンジ宣言」

【前文】
私たち西都市内の全中学生徒会（オール西都生徒会）では、社会づくりの担い手は私たち自身である」という自覚をもち、この校則検討プロジェクトを通して、これからの社会で活躍していくための力や、よりよい社会づくりに参画していく姿勢を身に付けたいと考えています。

学校は、一つの「社会」と言えます。その中で、よりよいものにする（インプティング）ために、私たち自身が積極的に参加して、

時代の変化にふさわしい、先生や保護者、地域の方々にも納得してもらいたい。

1 主体性
2 合理性
3 納得性
4 協働性
5 透明性

② さいと学のゴール的取組「さいと学アワード」！

西都市の中学校では、新・さいと学のゴール的取組として、中3生が地域の課題と向き合い、当事者意識をもってその解決に向かってプロジェクトを展開する探究学習「Future We Want」に昨年度から取り組んでいます。本校では「まちづくり」「新たな商業」「農産物の魅力」「観光業」の4観点から生徒達が探究的な学びを展開。課題意識に基づいたフィールドワークや体験などを通じ、自分たちでできるプロジェクトを展開しました。この学びの成果は、8月1日に市内の全中3生が参集する「さいと学アワード」で発表する予定です（来月号で記事掲載予定）。



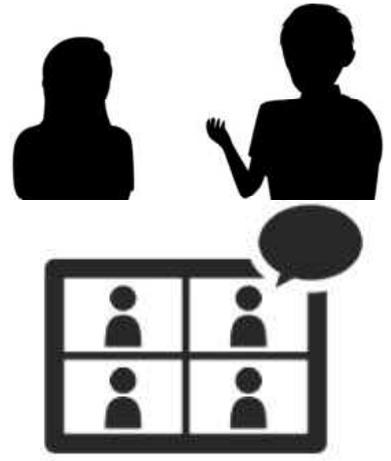
さいと学アワード向け探究的な学びを行う三年生



一学期が終了！みんなよく頑張りました！

7月20日(木)に終業式を行い、令和5年度の1学期が終了しました。6月末からコロナやインフルエンザなどが増加していることもあり、オンラインでの集会とし、中体連県大会等の表彰や一学期を振り返る「代表生徒と校長の対談」を実施しました。今回は1年生の高瀬蓮斗さん、2年生の日高梨寧さん、3年生の宮本友誠さん、旭吉法雅さんの4名と対談しましたが、さすがに妻中の代表、初実施にもかかわらず非常に落ち着いて含蓄のある意見発表をしてくれました。とりわけ、夏休みの挑戦として「家族のため、自分のスキルアップのために料理に挑戦したい」と述べた宮本さんの意見や、旭吉さんの「4月施行のこども基本法と校則改正の関係」についての意見は特に印象に残りました。

これからの時代においては、面接やプレゼンなどの場面で「自分が心の中や頭の中で考えたり感じたりしたことを自分の言葉で翻訳しアウトプットしていく「対話力」が強く求められています。本校でも対談形式の意見発表場面を多く取り入れていきたいと思えます。



九州大会出場！がんばってください!!

今夏の中学校総合体育大会(中体連)では空手道が団体形の部男女優勝、組み手の部男女準優勝、個人戦で2年生の岩切紅さんが3位入賞しました。また陸上女子800mで2年生の松岡茉莉明さんが1位、バドミントン女子ダブルスで小幡さん・林さんのペアが3位となりました。

以上の選手は8月に行われる九州大会に出場します。がんばってください！



熱中症標語コンテスト・入賞作品

大塚製菓が主催する熱中症標語コンテストで2年生の二人が入賞しました。梅雨が明け、夏の暑さが本格化してきましたので、皆さんも次の標語を参考に暑さ対策を十分にとりましょう！

- 2年・今井心晴さん「暑さには 水分と塩分の二刀流」(市長賞)
- 2年・杉田暁梨さん「屋内でも 水分補給しっかりと」(大塚賞)

三真の轍わたち

生成AI考 四月の入学式式辞でも少し触れたが、昨年12月に登場したチャットGPTをはじめとする生成AIの効用が大きな反響を呼んでいる。新聞でも最近では週に数回は生成AI活用法が論じられているし、文科省も7月4日にガイドラインを示し、その利便性を大いに認めながらも、その信頼性や学習意欲への影響等への懸念を示し、私たち利用者の判断力や人間性の大切さを指摘している▼では生成AIとは何か。例えばChatGPTについて言えば、Chatとはおしゃべりの意であるが、G(Generative)は「滑らかな文章を生成できる」、P(Pre-trained)は「(ディープラーニングによって質問に答える準備が整っている)」、T(Transfo)は「変形するもの」という意味があるようだ。ある研究者グループの作成したマニュアルでは、このおしゃべりの意義が注目されており、そもそもおしゃべりの起源は「一人の人間の独り言⇨右脳(感性)と左脳(論理)との間の意見交換」であり、こうした行為を右脳系の意見と左脳系の意見とを複数の人間が交換することによって集合知として獲得していくことこそが人類

最高度の英知であると指摘し、それを成しえる生成AIの優秀さがクローズアップされている▼ユヴァル・ノア・ハラリ氏は「サピエンス全史」の中で、人類が地上の覇者となれた要因は「想像力」だと述べている。考える力や創造性といった英知を有する生成系AIの登場は、コンピュータが人間を超えることへの恐れを感じさせたりもするが、それを使うのは私たち人間である。想像力や感性、判断力など人類の英知をもって、ぜひ有用な活用を確立させていきたいと思えます。(校長 伊東泰彦)